

## 平成 28 年度第 1 回図書館協議会

1、日 時 平成 29 年 1 月 24 日(火) 午前 10 時から正午まで

2、場 所 市民文化センター 1 階学習室

3、出席者

出席委員	井之浦 一子	家庭教育活動者（公募委員）
	久保 明子	家庭教育活動者（公募委員）
	新屋 広子	学識経験者（市議会議員）
	高銚 裕樹	学識経験者（大阪教育大学准教授）
	寺西 孝栄	社会教育関係者（図書館ボランティア）
	藤田 智子	社会教育関係者（PTA 協議会）
	中野 勝次	社会教育関係者（こども会育成連絡協議会）
	山本 真見	学識経験者（市議会議員）
欠席委員	榊田 和之	社会教育関係者（社会教育委員） 所用のため欠席
	蛇草 真也	学校教育関係者（堅上小学校校長） 所用のため欠席

事務局

教育部長	尾野 晋一
教育部参事兼図書館長	岩佐 昌史
柏原図書館館長補佐	児玉 太津男
国分図書館館長	増井 良年
柏原図書館主幹	山路 茂樹

4、案件

- (1) 平成 27 年度図書館事業執行状況
- (2) 平成 28 年度主要事業
- (3) その他

5、議事の内容

司会／

定刻になりましたので、ただいまから平成 28 年度柏原市図書館協議会を開会いたします。皆様方には、本日、公私なにかとお忙しいところ当協議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

本日の司会をいたします、柏原図書館主幹の山路でございます。よろしくお願いいたします。

まず、会議に入ります前に、本日の会議は柏原市まちづくり基本条例第 15 条により「会議の公開」が規定されておりますので、本日の協議会を公開する事といたしますのでよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、開会に先立ち尾野教育部長の方から開会のあいさつを申し述べさせていただきます。

きます。

<尾野部長挨拶>

司会／

<任命書の交付>

<出席委員の紹介>

<資料の確認>

それでは、議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第5条第2項に委員総数の1／2以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員10名中8名が出席されておりますので、協議会は成立しております。

それでは、まずはじめに本協議会の会長につきましては、昨年度の協議会で大阪教育大学の高鍬先生を選出させていただきましたが、副会長につきましては、学校教育関係者で国分小学校校長の藤本先生を選出させていただきましたが、転任されて、新たに蛇草先生に変わられたことから、引き継いで、本日欠席されておりますが、蛇草先生にお願いいたしまして、了承をいただいております。

異議がなければ、拍手をもってご承認をお願いいたします。

(拍手)

ありがとうございました。

それでは高鍬会長からご挨拶をいただきます。

<会長挨拶>

司会／

ありがとうございました。それでは協議会条例第5条第1項により会長が議長をつかさどる事になっておりますので、これからは高鍬会長に議事進行をお願いいたします。

会長／

それでは、次第に添って議事を進めます。

はじめに、「平成27年度の図書館事業執行状況」について事務局から説明願います。

事務局／

平成27年度の図書館事業執行状況について報告させていただきます。

本日お配りしております「柏原市の図書館・平成27年度」に基づいて報告させていただきます。資料が多いので、時間的なこともありますので、主な項目をピックアップさせていただきます報告いたします。

はじめに13ページをお開きください。登録者の状況でございます。平成27年度につきましては、「登録者人数の推移」としては、右端にございます5万1552名となっております。

しかしながらこれは物故者、転出者も含まれておりますので、正確な数字ではないと思っております。実際、利用されている方は下の「実利用者人数の推移」のところで、1回でも平成27年度に図書館で本をお借りになっている方は1万396名、人口の約14.6%の方が図書館で本を借りられていることになっております。このあたりの分析につきましては、後ほど資料1を付けておりますので、報告をさせていただきます。

次に18ページをご覧ください。「最近5年間の利用状況の推移」について、平成27年は1日あたりの利用者数は338名、1日当たりの貸出冊数は1,228冊、開館日数は354日、利用者数は11万9,489名となっております。貸出冊数につきましては、柏原図書館が20万6,442冊、国分が20万9,290冊、移動図書館・ひまわり号が1万8,965冊、全体で43万4,697冊となっております。過去5年間を見ても貸出人数が11万から12万人の間、貸出冊数も43万冊前後で、格段増えてはませんが、微増ということになっております。

続きまして21ページをご覧ください。予約の状況でございます。予約受付件数は柏原図書館で1万2,162件、国分図書館で1万2,365件、合計で2万4,527件となっております。予約件数につきましては、グラフにありますように毎年伸びておりますが、インターネットを使ったWEB予約が年々ウエイトが大きくなっております。平成27年度につきましては全体の半数近く48.9%になっております。これもインターネット、スマートフォンの普及により利用しやすくなっている結果の表れと考えております。

次は24ページをご覧ください。「相互貸借内訳」ということで、柏原の図書館にない図書を他市の図書館で貸借するという制度ですが、府立図書館や国会図書館を除く小計では借受冊数が1,321冊、貸出冊数828冊となっております。前年度より借受が80冊、貸出が131冊増加しております。

続きまして、25~26ページになります。広域利用者の状況です。平成24年度7月から大阪市と近隣10市による広域利用者数の現状です。貸出は10市の合計で2万1,254冊。これは全体の貸出の4.9%です。貸出人数が6,469人で全体の5.6%の方が利用されていることになっております。ここでみますと隣接する八尾市の方が多く、交通の便がよい近隣の藤井寺、羽曳野市が多いことがみられます。

28、29ページをご覧ください。図書館で実施しました行事をお伝えさせていただいております。柏原図書館では37回2,397人、国分図書館では39回、1,631人の参加がありました。平成27年度につきましては柏原図書館で職員によるおはなし会を開催しております。手遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居、工作などいろいろな催しを毎月実施しております。その一環として8月には夏祭りということでゲームや縁日などで大変盛況な状態でした。国分図書館では、3年目を迎えました「ぬいぐるみのおとまり会」が大変好評で、読売新聞にも取り上げられたということがありました。さらに出張ブックトークということで、司書が柏原東小学校に出向きまして実施しております。これも好評で関連した図書の貸出量が増えております。行事につきましては毎年新しい企画や創意工夫をして市民の皆様、子ど

もたれに集っていただける催しを続けてまいりたいと考えております。

次は 30、31 ページです。これは地域のボランティアの皆さん方と共同で行っている行事でございます。柏原図書館では 19 回、476 人の参加がありました。国分図書館では 22 回、315 人の参加がありました。このボランティアの皆様のご活動によりまして図書館の活性化がなされることや運営や事業の実施に工夫がもたらされること、また地域との連携が強まり親しみを持っていただけるというメリットもあり、今後も継続してまいりたいと考えております。

32 ページからは図書展示についての報告です。柏原図書館、国分図書館ごとにテーマを決めて、そのテーマに関連した資料の展示・紹介をしております。話題の事柄、季節、行事に因んだもの等テーマも様々です。利用者に思わぬ本との出会いがあるようにと展示を行っております。

35、36 ページには行事の写真をピックアップして載せております。このような写真については了解を得まして、図書館の Twitter や Facebook を活用して広報活動を行って、利用者の行事参加や来館を促そうということでございます。

37 ページです。「ブックスタート事業」ということで、健康福祉センター「オアシス」で行われている 4 か月乳児検診の機会に、絵本と、赤ちゃんが絵本を楽しむ体験をプレゼントしている活動でございます。赤ちゃんと保護者が絵本を介して心触れ合う時間を持つきっかけとして届けております。ボランティアさんとの共同事業で年間 24 回、27 年度は 489 名の方に来ていただきました。

その下につきましては、レファレンスの受付件数です。全館で 152 件となっております。続きまして、資料 1 をご覧ください。

柏原図書館統計資料ということで、1 ページ目には柏原市立図書館の図書購入費を平成 10 年から載せていただいております。毎年 1,000 万円から 900 万円前後で推移していますが、平成 16 年度の国分図書館の開館、平成 23 年度の国の補助金、地域活性化交付金以外の年度はほとんど 1,000 万から 900 万円ということになっています。市の財政事情も厳しく、なかなか増額を認めてもらえないのが実情でございます。

②につきましては、市の人口の推移です。5 年前に比べて 2,331 名減っております。40 歳以上は増加しておりますが、他の年代は減っており、特に 19~39 歳は 2,417 名も全体の人口減以上に減っているのがここでお分かりいただけると思います。

2 ページをご覧ください。③として実利用者人数の推移です。先ほど申しました実利用者人数ですが、5 年前と比較してはありますが、実利用者数は減少してはありますが、人口の変化のタイプに応じて数字の減少は少なくなっております。ここでも 19~39 歳、子育て世代の減少が著しいのが分かっていただけると思います。

④は年齢別利用率です。7~12 歳の小学生の利用が 50.5%ということで一番多いことがお分かりになるとと思います。ここでは 13~18 歳のいわゆるヤングアダルト層、それから 19~39 歳の子育て世代が減少しているのがお分かりになるとと思います。

3 ページをご覧ください。柏原市民年齢別利用冊数ということで載せています。ここでも5年の増減率を書かせていただいておりますが、19~39歳の世代が減少しているのが分かると思います。それから25年度から26年度の7~12歳、小学生の率が2.5ポイント上昇しているのですが、読書推進の運動が始まったことによると思われます。

⑥は利用者人数について。ここでも人口減に比べて利用者数は増加しているとお分かりになると思います。ここでも19~39歳の子育て世代がかなり減少しているのがお分かりになると思います。

4 ページをご覧ください。図書館の利用者の年齢別利用冊数です。5年間で増加しておりますので、図書館を利用されている方の来館頻度や貸出冊数が伸びているとここではお分かりになると思います。今後はこの統計等を詳しく分析して図書館の運営に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

以上で平成27年度の事業執行状況の報告を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

高鍬会長／

ありがとうございました。それでは、質疑応答に移りたいと思います。只今の平成27年度の活動報告について何か質問はありませんか？

委員／

聞き漏らしたのですが、3ページの平成26年の利用冊数で7~12歳が2.5ポイント上昇した理由を言われましたが、聞き取れなかったのもう一度お願いします。

事務局／

図書読書推進運動とかと言うことで、例えば東小学校では図書館で本を借りたらハンコを押す紙を持ってきていただいて、それにハンを押したり。

事務局／

学校内で一番冊数を多く読んだ人は校長先生が表彰するような取り組みがあったりして、表彰してもらいたいと毎月300、400と伸びているのでは。

委員／

各学校、独自でいろんな方法でやられているのですか？統一ですか？

事務局／

統一ではなくて、ただ読書は学校では推進していますので、朝読とかもありますので、基本的に学校は読書を薦めています。その中で、特に東小学校は図書館に近いということ

もありますので、図書館を活用するという意味でグランプリみたいなことをやっている、図書室もキャパも限られているので、その辺も連携できるということで東小学校は特にされていますし、柏原小学校もされています。各学校では読書を薦められています。

委員／

子育て世代といいますか、19~39歳の利用冊数、人数も減ってきているということで、人口そのものもあるかと思いますが、そこを何とか上昇していくような何か考えや、この年代に何か力を入れていることなどありますか？

事務局／

システム上、19~39歳という区切りでしか出せないのですが、20代と30代は少し違うのではないかと考えています。20代、30代は子育て世代と言われていますが、その忙しい生活の中でどうやって図書館が本の貸出をさせていただけるかということは、今後の検討課題だと思うのですが。具体的にいろんな取り組みをさせていただいているのですが、うまく結びついていないのかなと考えております。

例えば、子育ての関する本を展示しようかと思っているのですが、それがなかなか実情に結び付けられていないのかと考えています。

委員／

4カ月のブックスタートとか子育て向けの子どもさんに対するイベントなど積極的にされていて人数も増えているし、そこになんとかお母さんたち、お父さんたちも取り込めていけるようなことを考えていかないといけないだろうし、あとは子育て世代ということもさることながら、働き盛りの年代ということなので開館時間の延長などもその考えの中に組み込まないのでしょうか。

事務局／

今、おっしゃられた理由の中には社会的情勢というのが影響しているのかと。そうすると柏原市の図書館だけでなく近隣も踏まえて、全国的な意味合いもあって、減っているという可能性があるのか、そこらへんは検討していかなくては、要するに図書館はどうですかという情報収集をするべきかと思います。ただ、おっしゃるように本を読む、資料を読むという時間的なものが確保していただけるのはどうか、また今はいろんな情報を得るにはネット社会で本を読むよりはネットを使って検索する情報収集方法が、特にこの世代というのは活発な中で、どう使うというものも多いかと思う。そこをどう対応するか。目で見ると、字を追っていく、ネットではなく資料をですね、そこをどう魅力を発信するかです。減っていることには何らかの対応がいるのかなと思います。

委員／

たしかにネット社会ですので、今では小学生でも使いますし、インターネットで本を読んだりしますし。もし図書館に来てみたいという情報も、たとえば期間で時に応じた本の展示もされていますが、いろんな展示を見に行っただけですが、例えば健康週間なら健康に関する本の展示だけでなく、新聞の切り抜き記事やいろんな調べた情報を一面に展示したりとかするところもあるし、ネット社会と言ってしまうとそれまでですが、本を手にとっていただきたいです。温かみもありますし。

高鍬会長／

他には？

委員／

昨年だったと思いますが、ヤングアダルト層向けの何かイベントをやってみたいと、書いてあったと思いますが、何か実施されましたか？

事務局／

ヤングアダルト層の不振で、その年代に合ったサッカーや作品の収集をしております。そしてヤングアダルトコーナーに別置して貸出することを考えております。イベントについては毎年していますが、中高生自身が中高生に紹介してもらったポップを書いてもらい、それを貼りだして、中高生がお薦めの本を紹介してくれる。

事務局／

28 ページの各種行事で、柏原図書館の6月2日に「YA オススメ BON」というのがありますが、そのようなテーマを持って本を展示してみてもらおうようにしています。

委員／

それはどのように広報されているのですか？

事務局／

市の Facebook などに載せて発信しております。

委員／

市の広報には載せてない？

事務局／

それは今、分かりません。すみません。市の Twitter や Facebook には必ず載せています。

委員／

Twitter のフォロワー数はどのくらいあるのですか？  
ヤングアダルト層に限って、分かるんでしょうか？

事務局／

特定できないですね。

特定の若者向けにしたわけではなく、図書館のは常発信するわけで見てもらう方がどう見るかは分かりませんが、Twitter を使う方は若い方が中心かと思いますが。広報よりは周知的にはいいかと思います。

委員／

学級通信とか、学校通信みたいなものを載せるのは？

事務局／

一応、中高生ですので、中学校、近い柏原東高校などにはいけるかと思いますが。

委員／

違う話になりますが、やはり働き盛りだと余暇を楽しむということが重要になってくると思いますが、旅行の本のコーナーが古いと、私は使ってなくて申し訳ないのですが、古くて使えないとおっしゃる方がいらっしゃいましたので、限られた資料費の中でそれを刷新していくのは難しいとは思いますが、旅行に行く際にぱっと見て、開いて写真など見られるというのが楽しいかなと思うので、それができれば利用者数も増えるのでは思います。

事務局／

それは頭の痛いところです。予算が限られていますので、たくさん発行されているのでどうチョイスするかというのも問題になるし。

事務局／

1冊しか買わないので、1人の人しか借りられないというのもあって、やはり新しいのはみんな借りられるので、どうしても古いのが残ってしまう、ないよりはましなので、とりあえず置いておく形です。

事務局／

資料収集としてはそういうことも念頭に置いてさせていただいているのですが、その辺りはご理解いただかないといけないかと。申し訳ありません。



高銚会長／

私から、毎年言っていることなのですが、資料1を出していただいてかなりはっきり分かったので、改めて確認します。平成16年国分図書館ができ、そこまでは基本的な資料費は1,000万円、2館になっても1,000万円のままだんですね。その後それが900万円に下げた平成23年にちょっとあって、その後そのまま900万円です。2館になっているにも関わらず資料費がそのままというのは、要するに新しい本が半分ずつになるということで、それはやはり図書館の資料費としては十分とは言い難い。全国的には1館当たり資料費は平均850万円なわけですし、単純に図書館で使っている資料費を図書館数で割って850万円なのですが、それから考えると2館で900万円というのは全国平均からいうと半分くらいにしかならない。資料費だけで見ると全国的なところから見ると低い水準にあると言わざるを得ない。その大きな理由と言うのが、平成16年に2館になったけれども資料費が増えなかったというところにある。そこまでは平均的ではあります。平成16年の全国平均はもう少し多かったです。もちろんいくら言っても難しいというのは分かっているのですが、資料費の増額を強く求めたいところです。先ほど言っていた旅行関係の資料が足りない、あるいは古い資料しかないというのも相当程度資料費が足りないというところに起因するものと思われまので、まずは基本的なサービスとして資料費をしっかりと確保して、新しい資料を買っていくことがまずは必要だと思います。それから考えると利用率がよくこのくらいで下げ止まっているなど。それは実務担当者の大きな努力があつたことだと思いますが、例えば実利用者人数推移でいくと19~39歳については74.8%とかなり減ってはいるのですが、全体としては91%ということで、ものすごく減っているわけではない。そして利用に関しては、利用冊数を見る限りでは5年で105%と増えているというのを考えると、特に5年前と言うと平成23年で追加の資料費があつた時で、そこから見て増えているというのは、やはり実務の方が相当努力したのだろうなというところで、その努力がもし資料費が平均的であればもっと結果につながっているはずだと考えるともったいなくてしょうがない。ものすごく努力されているだろうに、それが1割程度のものにしかなくなっているというのは、基本となる資料費の貧しさが大きく出ているものだと思いますので、まずは基本の資料費の確保というところをぜひお願いしたいです。

年齢別で見て、人口としてやはり40歳以上の人のボリュームが大きい。0~13歳までを足したら20年位なるので全部足したところでようやく19~39歳の一括りにあたるわけですが、やはりそうすると若い方が全部足しても1万位になるので、やはり少ないわけですね。それに対してどうするかは難しい話で、年齢の高い人に対して数が多いからそこにサービスをしていこうと考えるのか、そうではなくてむしろ年齢の低いところに対してサービスすると、子育て世代も普通についてくるので、そこに対してサービスをすること。どちらも戦略として間違っていないと思いますが、両方一度にはできないので、どういう方向で図書館を運営しようとしているのかについて伺いたいと思います。

事務局／

高齢者はたくさん来館されますので、そのあたりのサービスは充実させていただいております。子育て世代、子育てに関しては、子どもさんに本に親しんでいただくきっかけ作りは図書館がしていかななくてはいけないところになり、そのあたりのサービスは重点的にしていかなければいけないと考えています。

事務局／

補足させていただきますと、この冊子1ページに基本方針3つをあげさせていただいております。その中で2つめの「児童の読書要求にこたえ、徹底して児童サービスをする」ということを謳っておりますので、当然ながら児童へのサービスは大きな柱になると思いますので、そこを重点でいくというのは我々としてはやっていかないとはいけません。そこに力を入れるということは、結果的には子どもがそのような習慣をつければ大人になってからも続くというのもあるでしょうし、児童サービスというのは非常に図書館サービスとしては階層的には児童をメインにしていくというのをここにはあげさせていただいております。

高鍬会長／

児童に対して決してこれ以上無視することはないと、図書館としては優れた選択だと思われれます。

他には？

ブックスタートをやることで新生児、あるいは4か月検診でされているところで、登録はされているということはないですか？

ブックスタートを行うことで4か月くらいの子どもが図書館に登録に来るということはないですか？

事務局／

その時に図書の出カードの申込書を一緒にお渡ししています。それで次回来られた時にカードを持っておられなかったら作りますというような周知をさせていただいております。

高鍬会長／

難しいのは図書館に来た人に対して情報を伝えるのではなくて、図書館に来ない人に対してどうやって図書館という存在を伝えるかというのがかなり難しいと思うので、ブックスタートはその一つの大きな場だと思うので、どう活用していくかというところで、たぶんいろんなことを検討されていると思いますが、うまい活用法があったらなと思います。

0~6歳は3,639人いて図書館を利用している0~6歳は491人ということですので、他の年齢層と変わらないパーセント。もちろん、0~6歳児は自分一人で図書館に来られませんので、親が連れてくるしかないわけですし、そこが少ないからと言って子どもに広報しよう

かという話にはならないので、どうしていくかは難しい問題だと思いますが。

委員／

子育て世代、子どもさんへのアプローチということですが、てんとう虫の会の紙芝居とお話の会がありまして、ほっとステーションですとか3歳半検診など行かせていただいています。その時図書館で作っておられる3カ月分のお話会の予定表をいただいて持って行って配っています。

事務局／

近隣の保育所と幼稚園につきましては、月に2回くらい来ていただいて、本の貸出をしています。国分も保育所とか幼稚園の子どもさんが散歩がてら図書館に来られます。

今年度まだ実現してないのですが、駅前のほっとステーションで司書が赤ちゃんに対する絵本の選び方とかを3月に開催できるかと企画中です。どんどん出張講座のような形でいきたいと考えております。

高鍬会長／

柏原市の保育園に団体貸出をしているのは何園ですか？

柏原市には保育所は何園ありますか？

事務局／

公立の保育所が6か所、民間はそれと同じくらいあったと思います。全部で12、3か所と思います。

高鍬会長／

個人的な経験ですが、私は奈良県の香芝市に住んでいますが、今1歳11カ月と3カ月の子どもがいますが、保育園に預けると毎週金曜日に図書館の本を子どもが保育園から借りて帰ってきます。それを週末に読んであげてくださいと。金曜になると保育園カバンに本が2冊入っていて、週末は保育園に行きませんのでその間に子どもに読み聞かせて火曜日に返す。おそらくそれは団体貸出の形で保育所に図書館が貸し出しているものを保育所がそれぞれの児童に貸し出していると思うのですが、そのような活動は助かっています。個人的感想ですが、僕では把握できない子どもに受ける本が時々混じるんです。読み聞かせても閉じられたら、あまり気に入らなかったかなと思うんですが、何冊かに1度もう一回もう一回と何度も言われる本があり、そんな方はなかなか自分では見つけられなくて、図書館に連れて行って本もいろいろ見ますが、どうしても自分の知っている範囲で選んでしまいますので、自分とは子どもは違うんだなと思った。子どもに本を親しませる方法として、保育園などを通じて、良い表現ではないが受動的というか強制的に本を提供できる環

境にしていく活動があればよいかと思います。保育園に対する団体貸出が 4 だとしたら、もう少し増やすことができれば、これはどちらかと言うと図書館の側がどうというより、保育園の側の活動としてどうということかもしれませんが、何らかの方法はあるのかなというところです。すみません、ただの感想です。

事務局／

保育所の園児さんが来られるのは、自分のカードを持っておられて、それで 1 冊ずつ借りて帰られています。団体貸出は園、保育所に貸し出しをしているので、別の取り組みになります。

事務局／

公立ですので連携しやすいという面があったと思います。当然先生が言われるように、保育園・保育所側での保管・貸出になりますので、それをしていただけるのかというところが重要かと思います。子どもさんに 1 冊渡すことは、保育園側の手間がかかります。ただ置いていて園児が見るというのであれば管理上はあまり負担にかからないというところがあると思います。それでその中で 1 つ持って帰っておられるのかなと思います。それはそれで維持管理、保管も含めて園側の協力をいただかないといけないと思います。

高鍬会長／

確かに手間はかかっていると思います。1 人ひとり本を選んで、しかも一度借りたものをもう一度ということがないので、相当冊数用意されて、しかもどの子にどの本を貸したかを記録されているんだろうと思います。それができるかどうかというのは難しい話だと思いますが、もしそれができたら親としてはありがたいかなと思います。先ほども言いましたが無責任に発言しますので、やってくれたらいいなということで発言しますので、できるかできないかは考えていただいて。

委員／

保育所の子どもがカードを作って、そのカードは学校へ行ってからも使えるのですか？

事務局／

一度作っていただければずっと使えます。

委員／

4 つある保育所はみんな来られていますか？

事務局／

これは別で個人で来られます。団体貸出の内訳の中にはその貸出したのは入らないんです。

事務局／

先生が引率して連れてこられて、個人カードを出して1冊借りられる。

あくまでも個人に貸し出す形です。

事務局／

月に2回くらい来られます。貸出期間が2週間ですので、その度ごとに来られています。

委員／

一度園児が図書館に来て、貸出している様子を見たいです。

事務局／

写真等を撮って記録させていただきたいと思います。

園外保育の一環、散歩の中で来られるのかもしれませんが。

委員／

移動図書館のことで。市の巡回バスも土・日・祭日は動いていない。移動図書館も働いている人は日曜、図書館まで行かないといけない。高井田、畑の人がちょっと図書館行けないと言われていた。10何年前に国分図書館ができる時、僕も図書館委員で入らせてもらって、てっきり国分合同会館を建て替えて図書館ができると思った。国分に図書館が欲しいという声が旭ヶ丘からあがったのです。田辺の方にできたので、今までと同じだという声を聞いています。もっと移動図書館を日曜日でも動ける態勢ができないかと。市長にも言っています。香芝、藤井寺でも巡回バスが休みの日でも出ています。柏原は出ていないんです。それを何とか動かしてもらえないかと。そうすればお年寄りでも図書館に行きやすい。よそができて、なぜ柏原は出来ないのかと言う声が高いんです。図書館の方で、移動図書館についても、高井田の歴史資料館や青山台の方には行っていますが、旧村の方には行っていないので、わざわざ田辺まで行かないといけない。電車乗ってきたら柏原にも来れるが、息子の嫁も柏原より国分の図書館の方が落ち着くと言っている。子どもを連れて行ってもゆっくり本を見れると。

事務局／

国分図書館はあとからできたので、スペースに余裕があります。

委員／

旭ヶ丘の人から図書館をという声が出て、行きにくい田辺にできているんですわ。

事務局／

図書館を設置するときどこに設置するかということは、行政にとっては公共施設をどこに設置するかは非常に難しいところです。もともと図書館ネットワークの中で1館の時はひまわり号を回してそれでサービスを拡充しようということで、今はそれも変わらないことです。それで今は柏原地域は柏原本館中心に、一方国分は国分中心にということだと思います。

委員／

あそこだと電車からも不便だし、なにかつけても不便だし、買い物に行ったとしても不便だし、やはり駅の近くに作るべきだったと思われる。

事務局／

今、おっしゃる話はもうできてしまっているのですが、これはどうもできませんので後はサービスをどうするかです。

委員／

移動図書館ももう少し動けるようにしてもらいたいということです。

事務局／

ひまわり号そのものは児童に対するサービスの一環というものでありましたが、どうしても子どもさん中心に回っていて、新しくできた時には学校にも行ったりもしましたが、ひまわり号がいくには一定のステーションというか、停車するスペースが必要です。高井田も最初は白坂神社に入らせていただいていたので、旧村にも近い場所だったので。そこもなかなか入りにくくなり、その結果高井田に行ったり、史料館に行ったりすることになっていると思いますが、すべてを網羅することは難しく、また土日の中でも本館の職員との絡みもあり、354日間開館していますので、ひまわり号に乗っている職員はそこばかりではなく、土日は本館業務をやっているということもあり、ひまわり号を土日動かすとすると本館も手薄になり人員確保が必要となってきます。

委員／

市民にとってはよその市ができて、なぜできないのかということ。

事務局／

そうですね、その人件費の確保ができるかも課題になるかだと思います。

委員／

先ほどの高鍬先生のお話からいつも思うのですが、ブックスタートに行かせてもらったらくよくお母さんから「どんな本を選んだらいいかわからない」と言われます。「図書館に行つてご相談して頂いたら親切に教えてもらえていいですよ」と言っているのですが、図書館カードを作られるのだから何冊か持っていってお貸しするとかどうでしょうか。4か月なので。いつも皆さん本をいただいているので喜んでくださいます。でも、1冊同じものをずっと読むのはと。私たちが読んで、お母さんが続いて読まれると子どもたちの反応がとても違います。だからとても良いと思ってさせていただいていますが、よく聞くのは「何を選んだらわからない」ということ。その辺りも考えて言っていただければよいかと。4ヶ月でお母さんが動くのは大変だと思いますが。もっとボランティアを利用して頂いたら、みんな喜んでさせていただきますのでお願いします。

事務局／

ブックスタート事業、限られた予算で本を1冊しか選べないということもありまして、いろいろな種類の本も買えたらいいのですが、予算がそこまでありませんので、申し訳ないのですが。

委員／

貸出ということは厳しいですか。

その時に、こういう本をというチラシでも渡しましょうか？

事務局／

絵本の選び方とかお薦めの本とかあると思いますが。

委員／

冊子はいただいています、なかなか皆さん中を開いて読まないんです。

事務局／

図書館側で工夫したお薦め本のリストとかあれば作るようにしたいと思っています。

委員／

それこそホームページにお薦め本のコーナーを作ってみるとか、よく他のインターネットを調べたら絵本ナビとかあるのですが、地元の図書館でこういう本がありますよと言われてれば親しみもわくのではと思います。

委員／

ぶっくパフェでいつも私たちがお借りしていいなと思う本を、お薦め本としていつも紙に書いて貼らせていただいたものを以前本にさせていただいたんですが、どこにいったのか分からないですが。

事務局／

国分には冊子があります。

委員／

ブックスタートの時にも置いていただいています、ああいうのも活用して頂いたら良いかと思います。一生懸命書いたのもったいないなど。

事務局／

いろいろご意見いただきましたので、検討して前向きにやっていきたいと思っています。ご協力いただいて、ありがとうございます。

高鍬会長／

それでは次第を続けていきます。

平成 28 年度主要事業についての報告をお願いします。

事務局／

それでは、平成 28 年度の図書館事業について、報告させていただきます。

今年度は残り 2 カ月となりました。これまでの重点目標が、主要事業計画に書いております。重点目標についてこれまでの取り組み状況を報告したいと思います。よろしくお願ひします。

平成 28 年度も引き続いて、生涯学習の拠点として、市民の皆様に資料や情報を提供し、多様な学習機会の提供など、市民に密着した図書館運営を行っております。

そこで 7 つの重点目標を掲げて事業を実施しております。

今年度はまず、児童サービスの充実ということで、子どもたちに読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけを提供することを目的に、子どもへの資料提供や本の展示、紹介、また行事についても、従来の図書館やボランティアでの行事を実施しておりますが、今年度は新たに国分図書館で、子育て支援、地域活性化を図るため「としょかんマルシェおはなしの森」を開催いたしました。

詳細については資料 4 にもついておりますが、後ほど紹介します。他にもブックスタート事業を行ったりいろいろな行事を開催するなどして児童のサービスの充実を図りました。

2 番目はヤングアダルトサービスの充実です。ここは図書館では一番耳の痛いところですが



が、読書離れが進んでいるといわれているヤングアダルト層の利用促進に努め、資料もその年代に合った作家や作品を収集して提供をしております。

3番目は、一般利用者、高齢者・障がい者サービスの充実です。利用者のニーズを的確にとらえた資料の収集・提供に努めております。また話題の事柄や季節、行事に因んだものなどをテーマに展示も数多く実施して参りました。

また高齢者・障がい者の皆さんが図書館をより快適に利用できるようハード・ソフト面を充実させ、より多くの人々の利用促進に努めているところです。

4番目は全域サービスです。

図書館から離れた地域への移動図書館車によるサービスを実施して、図書館と同等のサービスができるように努めております。

5番目は学校との連携です。

今年度は、学校側からの団体貸出のアプローチが多く、調べ学習や読書推進運動のために団体貸出が数多くありました。さらに図書館司書が小学校でブックトークを実施するなど連携支援の充実を図っております。

6番目は柏原コーナー地域資料の充実です。

今年度はNHKの大河ドラマが真田幸村を取り上げたこともあり、後藤又兵衛など柏原が舞台となったこともあり、関連する所蔵資料をブックトラックに別置するなど展示貸出を行いました。

その他にも、柏原市に関する歴史文献等を収集して、内外に柏原をより周知してもらえよう柏原コーナーの充実を図っております。

7番目は情報発信の充実です。

ホームページ、ツイッター、フェイスブックによる広域への情報発信を実施し、図書館への来館、行事等の参加を促し幅広いサービスを行っております。

インターネットを活用した予約、貸出状況、貸出の延長のサービスが周知されておられませんので、その周知を図ってまいりました。

以上のように、平成28年度のこれまでは、図書館サービスの充実を図り、市民や利用者の皆さんが図書館をもっと身近に感じ、生活や暮らしに密着した図書館になるように努めてまいったところです。

次に資料3についてです。

これはまだ年度途中ですが、平成29年1月までに実施された行事等です。

柏原図書館が図書館主催の行事が33回開催し、参加者が1,190人。地域ボランティアの皆さんとの協働事業での開催が15回、参加者が365人となっております。

次のページで国分図書館では、図書館主催の行事が39回開催し、参加者が1,176人。地域ボランティアの皆さんとの協働事業の開催が18回、参加者が259人となっております。この中のいくつかの新規の行事や話題の行事を資料4にまとめておりますので、そちらをご覧ください。

1 枚目は「としょかん書庫さんぽ」ということで、柏原図書館で 11 月 3 日文化の日に実施しております。現在、各地の美術館や劇場で行われているバックヤードツアーを図書館の書庫でもできないかなということのでこれを実施しました。

普段は入ることのできない書庫を開放して、どんな本があるのだろうか、どんな調べ物ができるのだろうか、手に取って楽しんでもらおうと企画してみました。

小学生が朝早く並ぶなど反響も多い事業でした。

次に「ぬいぐるみのおとまり会」の話をさせていただきます。

平成 24 年に始まったこのイベントですが、すっかり定着して、毎年定員を上回る人気があります。昨年度は新聞で紹介していただき、今回はインターネットのニュース「バズフィード」や「ヤフーニュース」、英語版ですが「ロケットニュース 24」にも取り上げられるなど反響が多く、参加者からも好評のイベントです。この事業については夜遅くまでするので職員の負担が多いのですが、毎年続けて行けたらと考えております。

「としょかんマルシェおはなしのもり」について。

10 月 30 日に国分図書館前の道路用地をお借りして開催いたしました。

親子で絵本の世界に親しんでいただき、子どもたちに読書の楽しみを知ってもらうことを目的として実施いたしました。内容につきましては、野外でのお話会、ワークショップ、児童書のリサイクル市など図書に関する様々なブースを並べて子どもたちに楽しんでいただきました。今回初めての企画ですが、絵本や児童書の世界をテーマとした物品の販売、お菓子、パン、手作り小物、野菜などを出店者を公募しまして 7 人の方に来店頂いております。

来場者の皆さんにも公表でありましたので、今後も続けていきたいと思っております。図書館との地域連携、子育て支援等の面からも非常に有意義な取組であったと思っております。以上、平成 28 年度ここまでの活動報告でした。

ありがとうございました。

高鍬会長／

平成 28 年度の主要事業について説明がありましたが、ご意見、ご質問等ありませんでしょうか。

国分図書館で行った図書館事業で、1 月 4 日の「本の福袋」、参加者が 0 になっているのですが。

事務局／

これは継続されていて、まだ更新していないということです。

高鍬会長／

柏原図書館ハッピーハロウィンという事業、大盛況だったみたいですが、2 日間のイベン

トで1日目の29日で景品が終わったとありますが、景品は何ですか？

委員／

仮面でしたね。かわいい仮面をつくってはりましたね。

事務局／

2日間イベントあったが、数が足りなくて1日目で終わってしまいました。

申し訳ない状況になってしまいました。

高銚会長／

2日間のイベントなら2日分用意しないと、きっと子供たちも楽しみにしてきたと思いますので。予想外に大盛況だったんだろうなと思います。

初めてのことから予想外のこともあると思いますが、次やるときはもう少し数を用意していただければと思います。

委員／

柏原図書館の図書館司書を体験してみようとか、6月から8月のヤングアダルトオススメBONとかもう少し参加者があればと思うのですが。先ほども意見が出ていましたが、学校にもう少しこんなことをしているとPRをされたらもう少し参加もあったかと思いますが。

せっかくの取り組みですし、たくさんの児童生徒が来られたらと思います。

書庫散歩も定員が6組となっていますが、もう少し増やすのは難しいのでしょうか。

事務局／

普段、書庫を見せてくださいということでしたら、職員が付いて入ることは可能です。

あえてイベントにさせていただきました。普段から書庫を見せてくださいという方はいらっしゃると思いますので、その時は臨機応変で対応しております。

書庫の本はなかなか皆さんに検索はできますが見えないので、おっしゃっていただければご案内はいたします。

あえて今回はバックヤードツアーとして、裏側を見てもらうということでした。これは広報が間に合わなくて、チラシだけの企画でした。

委員／

事業計画書の③に大活字本や録音図書のことあげられていますが、これもたくさん新刊の本も入れていただけるのですか？

事務局／

実際にはなかなか新刊に手が届かないというか、予算が限られているので、何冊かは入

れますが大量には購入できない状況です。

委員／

柏原市の障害者の日常生活事業にこれが入ってないんです。東京などはこれが自治体の事業として大活字本の助成がでているところもあります。

買おうと思えば字が大きい分、1冊で3冊分の費用がかかるので、図書館の存在がありがたいです。利用も増えているということで、できるだけ予算も確保していただいて、高齢者の方など字がだんだん見えにくくなる方にも利用していただけたらと思います。

委員／

CDなどについてですが、柏原市には「やまとがわ」という朗読ボランティアがあって、そこが広報なども吹き込んでおられ、小説などもおいておられるので、どんどん活用されたいと思います。

事務局／

録音図書はカセットテープであります。

委員／

ダイジーといって、録音機器も新しくされています。

事務局／

ビデオも収集していますが、ビデオもVHSでそれも機械がほとんどない状態で、それもどうするのかということになっています。

委員／

柏原市の広報に、以前は子どものコーナーに図書館の活動予定が載っていたと思いますが、今は載っていないのですが、1月からでしたか載っていません。

事務局／

紙面の関係で載せられません。

委員／

そこだけ見てこられる方がおられて、止めちゃったのと言われる。

そこに図書館のページを見てというようなコメントがあれば、図書館のページも見えてくれるかなとお願いしたいと思います。

事務局／

広報と相談します。

委員／

国分図書館で読み聞かせボランティア講座を 2 回されていますが、同じ方がされているのですか？2 回講座なのですか？

事務局／

これは、国分図書館の司書 2 人が担当して、2 回連続で参加していただける方向けに開催させていただきました。

委員／

講座を修了したら何かの形でボランティアに参加していただけているのですか？

事務局／

紹介はさせていただいていますが、実際結びついているかはどうかは。その辺りの工夫はさせていただきたいと思います。

委員／

としょかんマルシェ、私も参加しましたが、とても盛況で始まる前からたくさん並んでおられました。

面白い企画でした。絵本だけでなく、絵本の中に出てくる食べものもあったのでとても楽しい企画でした。次も続けていきたいというお話だと思うのですが。

事務局／

外での企画で机など外に運ぶのは労力がすごくかかるので、違う形で 4 階ホールを使って館内で出来ないかと考えています。あまりお金を使わずにと思っています。

委員／

リサイクルで本がいただけるので、ありがたいという声もあったので、違う形でも続けていただければと思います。

事務局／

図書館だけの企画だと本に興味のある方しか来られないが、今回のような物品販売は集客にはよく、それをきっかけになればよい。特に絵本の交換のところがすごくよかったで

す。集客的なところをアピールしながら繋げていけばいいかと思いました。

委員／

ぜひ柏原図書館でも。

事務局／

天気が一番心配でした。良い天気によかったのですが、天候によっては館内に差し替えないといけないので。

野外だと通りすがりの方にも来ていただけます。

特に販売などあれば、これなにということで来ていただける。

相乗効果があると思われます。

委員／

毎年、図書館のリサイクルで本を何冊かいただいています、読んだ後その本を次の時また持っていてもよいのか。

10冊となっているので、あの本なかったけど今度でたら欲しいなというものがあり、次年度に持って行って交換という形でできないかと。もったいないので。

事務局／

図書館としては、受け入れできる本、入れ替えとしてリサイクルに出す本がありますので、返されると同じ事になりますので。

わかる作業だけでも労力がいらいますので、ご理解をいただきたい。

高鍬会長／

全般にわたってのご意見、ご質問などは？

委員／

資料を可能なら事前に配布していただき、年に数回の貴重な会議なので、事前に目を通したうえで会議をすればいいかと思います。

事務局／

わかりました。

高鍬会長／

以上で、本日の会議に付された案件の全てが終了いたしましたので、これをもちまして平成28年度の柏原市図書館協議会を終了いたします。

委員各位におかれましては、公私何かとご多忙にも関わりませずご出席賜り、ありがとうございます。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局／

高鍬会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてありがとうございました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後とも職員一同、市民が利用しやすい図書館を構築していく所存でありますので引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

なお、最後になりますが、本日の会議録につきましては、後日各委員に持ち回りさせていただいた上で図書館のホームページに掲載させていただきますことをご了承賜りますようお願い申し上げます、閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

終了